

(第3種郵便物認可)

明石北高校の生徒が22日、石ヶ谷公園（明石市大久保町松陰）で特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の生息状況を調査した。ソメイヨシノの木に成虫や幼虫がいる痕跡がないか、丹念に調べた。（赤松沙和）

外来カミキリの生息状況を調査

明石北高生、石ヶ谷公園でサクラの木500本



ソメイヨシノの木を調べる生徒―石ヶ谷公園

クビアカツヤカミキリは木でサナギが見つかったとサクラやモモなどバラ科の樹木に寄生し、農業被害や倒木を招く恐れがある。首のように見える部分に赤い筋があるのが特徴で、成虫の体長は2・5〜4センチ程度。繁殖力が高く、早期の発見、駆除が重要という。

同公園で一昨年の6月に県内で初めて確認され、これまでに成虫は神戸や芦屋などで計23匹発見されている。同校の生物教諭の植田好人さんによると、今年はまだ県内で成虫は見つっていないが、ちょうど羽化する時期といい、公園近くの池では今月中旬にモモの木でサナギが見つかったという。

同校ではこれまで、同公園を中心に季節ごとに定期的に調査を実施。同日は、同校の生物部と有志の1、2年生9人が参加した。公園内のソメイヨシノ約500本を対象に、幼虫が排出する木くずとふんが混ざった「フラス」や成虫がいないか、番号のプレートが付いた木を探しながら一本一本丁寧に確認。成虫は見つからなかったが、クビアカツヤカミキリの可能性があるフラスを数カ所で見つけた。見つけたものは樹木医が分析し、クビアカの場合には行政が対応するとい

クビアカツヤカミキリのフラス―石ヶ谷公園



早期発見・駆除へふんなど痕跡探す

明石市内で確認されたクビアカツヤカミキリのサナギ(明石北高校提供)



同校は7月に公園内の梅の木約千本を調査予定。他にも、周辺の他校敷地内のサクラなど調査対象を広げていく。初めて調査に参加した1年の石田蓮花さん(16)は「生物部の友人に教えてもらいながら探した。機会があればまた参加したい」。生物部の2年永田帆帆子部長(16)は「いない方がいいけど、見つけた時は達成感がある」といい、「去年より生息域が広がっている気がする。これまで調査の発表でもらったアドバイスを生かしながら、拡大を防止していきたい」と力を込めた。

丸谷市政の1年間検証

市民ら20人、課題など意見交換

昨年5月に
聡子明石市
検証する勉
ウィズあか
仲ノ町)で開
民など約20
政の1年間の
ついて話し合

不動産
売買
EN

体「市民自治
催。

冒頭、新庁
旧明石市立
市の政策課
らに対する
を、代表世
んが解説し
丸谷市長が